

第6回人づくりコンテスト 工場内にのぼり型の安全表示

優良賞



工場内に注意喚起やKY(危険予知)活動の安全表示があまりなかった。

歩行中でも目に留まりやすいクレーンの柱を選び「のぼり型」の安全表示を掲示したところ、「工場内が明るくなった」「サイズや配色の工夫で遠目からでも目立つ」「インパクトがあり分かりやすい」と現場から好評に。

安全表示で

人づくり

ビーポップを活用した安全活動事例

第34回

富士車輛株式会社

会社概要

●所在地 本社:滋賀県守山市千代町13番地1 ●創立:1944年2月(創業:1925年10月) ●従業員数:200名 ●主な事業内容:環境事業/廃棄物処理、リサイクル機械、プラントの設計・製造・販売およびサービス 車輛事業/LPG運搬用・各種産業ガスローリー、各種産業ガス用压力容器・貯槽、塵芥収集車、破砕機搭載車輛など

社員の自覚から発したボトムアップの安全表示で安全活動が大きく活性化

富士車輛(株)は主に、破砕機やリサイクルプラントなどで定評のある環境機器事業と、タンクローリーやごみ収集車に代表される特殊車輛事業で多くの実績があります。近年はSDGs達成に向けた取り組みにも力を入れ、資源循環型社会の発展に貢献する環境エンジニアリング企業として、2025年の創業100周年に向けてデジタル変革(DX)戦略を展開、CXの最大化に挑戦しています。

会社では長年、工所用黒板にビーポップを活用してきましたが、2022年からは全社の活動基盤である6S3T改善活動の一環として安全表示にも挑戦し、「第6回安全表示・人づくりコンテスト」に応募したところ、見事に優良賞を受賞されました。

そこで、同社の安全方針や今後への期待などについて鳥居周代表取締役社長に、作品へのこだわりや工夫したポイントなどについて同社環境製造グループの清水巧グループ長、環境工務グループの山尾麻衣子主任、環境製造部環境製造グループの高坂銀太班長にお話を伺いました。

危険箇所に安全表示を積極的に展開

2023年度通期ゼロ災害を達成

同社では、グループ全体の安全衛生基本方針である、「安全はすべてにおいて優先する」という理念を基に、事業場内や現地工事などの災害リスクを中心に安全衛生活動を行っています。2023年

度は、危険箇所の洗い出しとリスクを回避するための行動を明確にし、危険と思われる箇所には安全表示を積極的に展開したところ、記録が残る23年間ではじめて、通期ゼロ災害を達成したそうです。

実際にビーポップで安全表示を作成している山尾さんは、「受賞作以外にも、オフィス内では曲がり角の衝突注意、食堂の転倒注意やドアの開閉、工場では転倒注意、階段段差、踏み外し注意、保護具の着用など、これまでさまざまな表示を作ってきました。常に作業者の声を聞くことを大切に、皆に相談したり、見え方を確認したりしながら作成しています」と、活動のポイントを語ります。

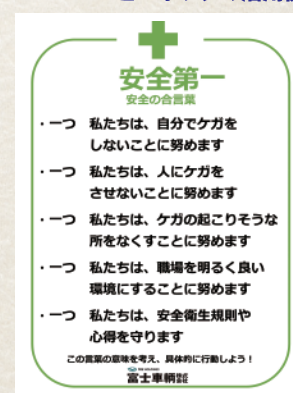
社員が主体となった安全表示活動

全社に横展開していきたい

受賞作については3人でチームを組み、危険箇所や改善点を洗い出し合いながら考案しました。特に工夫したのは、文字数を10文字前後に収めて端的な表現で標語を作成したことや、どこからでも見える位置に明るく見やすい色で掲示したこと。作業前に安全確認をする「ひと呼吸」で安全意識の向上につなげたい、という思いで、現場からの意見を出しましたと高坂さん。作業者が通行する目線の柱に掲示することで安全意識を喚起しやすくなりました。

「このコンテストを通じて、安全表示の重要性や意味を改めて学ぶことができました。今後も少しでも多くの社員が

ビーポップの活用例



鳥居社長が発案して2019年に行った「TWI研修(職場教育の手法の一つ)」の資料から引用。同社では毎朝、この合言葉を全員で唱和している。



無災害記録表示の前で、写真左から清水さん、鳥居社長、高坂さん、山尾さん。同った2024年6月5日の時点で557日連続、直近では8月27日現在で639日まで無災害を継続している。

※=CX: カスタマーエクスペリエンス。顧客体験価値と訳され、顧客に対して「購入に伴う一連の体験」も提供し、その価値を高めることで顧客からの支持を得る考え。

※=6S3T改善活動: 整理・整頓・整備・清掃・清潔・躰の6Sと、定品・定量・定置の3Tを実践することで安全性や作業性を向上させ、品質、納期、コストを改善する活動。

お問い合わせ

マックス株式会社

オフィスプロダクツ営業部

安全表示・人づくりコンテスト事務局

人づくりコンテスト

検索

TEL:03-3669-8108(代) Mail:opsupport@max-ltd.co.jp